

様式3

令和6年度 自 己 評 価 表

鳥取県立米子南高等学校

中長期目標 (学校ビジョン)	大胆な挑戦	1 意欲を育てる 2 成長を支える 3 変化を求める	今年度の 重点目標	1 基礎学力の向上 3 的確な情報発信 5 地域社会への貢献	2 基本的生活習慣の確立 4 キャリア教育の充実 6 業務改善の取組
-------------------	-------	----------------------------------	--------------	--------------------------------------	--

年 度 当 初					評 価 結 果 (2)月	
評価項目	評価の具体項目	現状	目標(年度末の目指す姿)	目標達成のための方策	経過・達成状況	評価 改善方策
1 基礎学力の向上	家庭学習を充実させ、基礎学力を定着させる。	1 1時間以上の家庭学習を行っている生徒の割合：25.1% 2 検定対策、学力下位層に対する指導、課題提出等の取組を行い、一定の成果は得られた。	1 1時間の家庭学習を行っている生徒の割合：30%以上 2 教科間の連携を密にし、地域貢献に繋がる汎用性のある学力を育成する。	1 各教科が連携して家庭学習に取り組ませると同時に、生徒自ら学びを深めたいくなるような仕掛け作りを行う。 2 定期考査や各種検定の対策を行う等きめの細かい学習指導を行う。	1 1時間以上の家庭学習を行っている生徒の割合：26.6% 2 検定対策、学力下位層に対する指導、課題提出等を通じてきめ細やかな指導を行っている。	C ・基礎学力の定着を目指し、各教科との連携を通じて家庭学習の取り組みを高め、また夏季・冬季講習等の計画、実施を行う。
	一般教養を習得させ、社会人としての必要な力を身に付けさせる。	3 ICT活用を進めているところ(職員の81.6%が「ICTを活用した授業を実施した」と回答)。 4 「授業理解における肯定的評価」の割合：85.8%、朝読書・朝勉強テストで知識が身についていると感じている生徒の割合：73.8%	3 全ての教員がICTを活用した授業を行っている。 4 授業理解における肯定的評価」の割合及び朝読書・朝勉強テストで知識が身についていると感じている生徒の割合：85%以上	3 Chromebookを授業や課題に積極的に活用する。そのための校内研修を充実させる。 4 朝勉強テストを含め知識及び学力向上について、その効果、代替策についてICT活用を視野に入れながら研究、検討を行う。	3 職員の78.9%：「ICTを活用した授業を実施した」と回答。関係分掌やICT支援員を中心に研修を延べ9回実施。 4 生徒の84.8%：授業に対する理解について肯定的な意見。「朝読書・朝勉強テストで知識を身につけた」と回答した生徒の割合は76.7%。	B ・引き続き関係分掌、ICT支援員と連携し、授業に活用できる研修の充実を図る。 ・朝勉強テストについてはICT活用を含め、代替策の研究、検討を行う。
2 基本的生活習慣の確立	知・徳・体のバランスが良い生徒を育成する	1 基本的な生活習慣が確立していると考えている生徒の割合：88.6%、保護者の割合：85.5% 2 保健室来室者の状況等を鑑みて、必要に応じた保健指導を実施し、基本的生活習慣の定着を図った。	1 基本的な生活習慣が確立していると考えている生徒及び保護者の割合：両者とも90%以上。 2 引き続き生徒理解に努め、全職員で共有している。	1 生徒、保護者、教育相談をはじめとする校内組織及び関係機関の連携を強める。また生徒が安心して学校生活が送れるよう、生徒に積極的な働きかけを行う。 2 ハイパーQやストレスマネジメントを継続して行い、情報を共有しながらきめ細かく対応していく。	1 基本的な生活習慣が確立していると考ええる生徒の割合：87.8%、保護者の割合85.6% 2 生徒に関する情報共有はきめ細やかに行うことができた。	B ・生徒の安心・安全を確保できるよう校内でのサポート体制を強固にするとともに外部機関との連携も強化する。
	社会生活におけるルール・マナー・モラル等を遵守する習慣や規範意識を習得させる	3 登下校時、ネクタイ未着用の生徒が一部みられる。 4 日常的に挨拶ができない生徒がみられる。	3 90%以上の生徒がきちんとした着こなしをしている。 4 継続的に分離礼の取組や環境保全についての啓発活動を積極的に行っている。	3 服装面・生活面ともに全職員で連携し、粘り強く指導する。 4 学校生活の全ての場面で全職員で礼儀・作法について指導する。	3 「基本的生活習慣が確立されている」と回答した生徒の割合は87.8%。他方服装違反、遅刻を繰り返す生徒も見られる。 4 講習会や授業を通じて啓発に努めたが、必ずしも生徒の自主的・自発的な取り組みには至っていない。	C ・生徒との対話を通じて粘り強く指導する。また全職員が足並みを揃えた指導を図る。
3 的確な情報発信	メディアを利用して、教育内容を分かりやすく伝達する。	1 行事や授業の様子等、頻繁にホームページに掲載することができた。新たにInstagramによる情報発信を開始した。	1 ホームページやfacebookがさらに見やすく充実したものになっている。	1 教職員がICTの知識を深めることで、より多くの教職員が情報発信を行う。	1 授業の様子を積極的に取り上げ、またwebページの修正を迅速に行うことができた。	B ・今後も引き続き学校の出来事、様子について幅広く発信することに努める。
	特色ある専門高校としての人財育成に取り組む姿を発信する。	2 みつばち学習発表会では、各科の取組や国際交流等の発表を行うことができた。	2 みつばち学習発表会の内容が深まり開かれたものになっている。	2 取組に探究的な要素を取り入れ、発表方法も工夫する。一般の方の観覧も検討していく。	2 今年度のみつばち学習発表会では、従来の内容に加え新しい取り組み(DXハイスクール、プロフェッショナル・インターンシップなど)も加え、充実した内容となった。	B ・発表内容のより一層の充実を図るため、日常的な学びの中から明確な目標や計画性を持たせる必要がある。また外部への情報発信の方法について検討の余地がある。

4 キャリア教育の充実	職業観・勤労観の育成を図り、進路の実現を目指す。	1 幅広い視野で主体的な進路検討ができるようにするため、学年全体で大学等見学、企業見学及び対話型の企業人との座談会をするなどの充実を図った。	1 生徒の職業観・勤労観が高まり、明確な進路意識を持っている。	1.2 専門性を活かしたキャリアを形成するため、体系的な取組となる年間計画を再構築し、各種事業の充実を図る。また、より高い意識を持って受験に挑戦できるようにするため、総合型選抜や学校推薦型選抜の対応に関する職員研修等を行う。	1 学年に応じた進路行事及びキャリア教育プログラムをPDCAで再構築、内容の充実を図った。2年生「プロフェッショナル・インターンシップ」は4名参加し、有意義な内容で専門性を高めることができた。 2 入試形態が多様化・複雑化する中で、分掌・学年を通じて進路情報の提供に努めた。教職員への研修は未実施。	B	・これまでのプログラムに関して、専門性との連動等を再認識、再検討しキャリア教育全体の計画の見直し、整理を図る。 ・職員全体の研修を実施し、進学指導の充実を図る。
	専門的な学習の取組を深め、より高度な専門資格を取得させる。	3 専門的な学習を深めることができたと考える生徒の割合：92.5% 資格取得に向けた放課後講習を計画的に実施している(商業、調理コース)	3 専門的な学習を深めることができたと考える生徒の割合：90%以上	7/	3 専門的な学習を深めることができたと考える生徒の割合：95.6% 家庭学科では、初の四冠王(洋服・和服・食物・保育)を達成した(1名)。	B	・生徒にカリキュラムをよく理解させ、難易度の高い資格取得に向け、生徒への動機付けを段階・計画的に行う。他方、基礎的な内容の定着を図る必要もある。
5 地域社会への貢献	地域活力の導入や地域活性化の推進を行う。	1 課題研究において、地域連携や地域貢献に取り組んだグループが多く見られた。	1 生徒が探究心を持って主体的に課題研究に取り組んでいる。	1 生徒が主体性を持って課題研究に取り組む仕掛けづくりを行い、地域へ積極的に向向していく。	1 生徒が地元企業や各種団体と連携したり、地域住民との交流を通じて問題解決に取り組んだ。学校での学びを通じて活動の場を校外に求める生徒も見られる(とっとり若者活躍局、YONAGOまちなかハイスクール、とっとり夢プロジェクト等への参加)。	A	・探究的な学びを深めるため、低学年より学びに対するスキルを学び、身につける必要がある。
	学校や地域で主体的に行動でき、地域社会の発展を進める人材を育成する。	2 eスポーツ活動では、R5年度22回の外部との連携による活動を行った。 3 社会貢献を推進しようとしている生徒の割合：85% コロナウィルス感染症5類移行を受け、地域の保育所、小学校、高齢者施設などとの交流が再開し、販売実習やボランティアなども活発に実施されている。	2 販売実習等に主体的に取り組むことで、生徒が地域に愛着をいただき、地域の方々も本校を応援している。 3 社会貢献を推進しようとしている生徒の割合：85%以上	2 地域交流の拠点となる施設との交流や連携を深め、地域に密着した活動を行う。また、eスポーツ活動を通じて高齢者施設等とのつながりを深める。 3 生徒が達成感を感じることで、生徒の積極性を高めていく。 4 SNS等を活用しながら地域のニーズを把握、掘り下げ、新たな形での地域貢献を模索していく。	2 eスポーツ活動では外部との活動を20回実施し、地域との関わりを深めることができた。 3 「社会貢献を推進しよう」としている生徒の割合：86.1% 福祉施設、諸団体との交流により他者理解、人権意識の涵養ができた。	A	・今後も継続して取り組む。 ・ボランティア活動や各種団体の取り組みについては、積極的に生徒への情報提供を行い、生徒の積極性を促す。
6 業務改善の取組	ワークライフバランスを保つことを推進する。	1 時間外業務が年間360時間を超える職員の割合：5.7%（昨年度より減少）。	1 各個人の時間外業務が月30時間（最大45時間）以内、年360時間以内	1 業務の効率化を図り、教員間で分担することで科内及び分掌内で協働・共有化を図る。	1 時間外業務が年間360時間を超える職員の割合：10.6%（1月末現在） また欠席連絡、保護者会の時間設定等をgoogle classroomで実施した。	B	・教職員もICTの活用をより一層行い、業務の共有、協働を図る。
	長時間勤務を解消する。	2 一部教員に長時間勤務が偏る傾向がある。	2 「部活動に係る活動方針」に沿った部活動が行われている。	2 休日の部活動においては、できる限り顧問間で分担し、指導するようにする。	2 部活動指導員の活用(R6年度1名)を通じて、教員一人あたりの部活動指導時間の軽減を図る。	B	・一部の教員に負担がかからないよう顧問間での連携を強化する。

評価基準
 A：十分達成
 B：概ね達成
 C：変化の兆し
 D：まだ不十分
 E：目標・方策の見直し

【100%】
 【80%程度】
 【60%程度】
 【40%程度】
 【30%以下】